

## 第4章 着眼すべき注意信号

(Findings)

この章では、家庭、学校又はコミュニティ環境の中における生徒のある種の性向、状況をリストアップする。これらの全て又は大部分が脅威を行った生徒に該当すると思われるとき、これらを注意信号と見なす必要がある。

この際特に強調したいことは、このリストはまだ暴力をふるったり脅威を実行したことの無い生徒が将来暴力行為を行うかどうかを予測するためのチェックリストではない。そうではなく、生徒が何らかの脅威を行って4側面型モデルによる評価が実行された後に、初めてこのリストの適用を検討すべきである。

評価の結果、これらの性格や行為および4側面の全てで問題点が合致すると認められるとき、その生徒は脅威内容の通りに行動する事を幻想しているか、暴力行為を実行する動機を持っているか、あるいは脅威を実行するためのステップを踏んでいるかの何れかを示唆している可能性がある。

以下の警告についても強調しておきたい。

1. どの一つの性向や性格でも単独で取り上げたり、他の項目よりも重視してはいけない。これらの性向を数個持っている生徒でも、校内発砲や暴力行為を全然考えてもいない者は多数いる。

4側面型評価モデルで潜在的に危険な脅威者を識別する場合の鍵は、それら4領域の各領域において、大部分の項目に問題点があるときである。しかしながら、何個以上の問題性向があれば、どの生徒が問題を引き起こすかを示すような「魔法の数字」は存在しない。

希望的には、今後この領域での経験的な調査によって、どれが重要な性向でありそれにどの程度の重み付けをすべきかが決定されるようになるだろう。しかし実践的・常識的にこのモデルを適用すれば、これら4側面の中で問題点が多ければ多いほど、評価者にとっての不安のレベルは増大するということが言えよう。

2. 行動は個性の表現である。しかし巡り合わせの悪い日には、生徒の真の個性や通常の行動パターンが現れないこともある。行動を正確に評価するにはベースライン—その人の日常の典型的な行動パターン—を確立しておく必要がある。生徒の評価実行責任者は、その生徒を一定期間以上よく知っており、色々な状況下でのその生徒自身、及びその生徒が大勢の人とつきあっているときを観察している人からの情報を求めるべきである。

3. 以下に列記する行動や性向は、自己陶酔的個性や精神衛生上に問題があるかもしれない生徒が抑鬱状態にあるときに現れる。このリストと医療診断上の兆候とが重複しているからといって、4側面型評価モデルによる評価が精神衛生の医学的診断に取って替わるものではない。また重い精神病あるいは薬物乱用障害の兆候があるとき、暴力への危険性は著しく高まる事があるので、精神衛生専門家による評価が必要である。

以下の行動及び性向リストは、評価モデルに従って4側面に分類されている。このリストは以下の分析研究を基にして作成された。

- ・全米暴力分析センターの20年にわたる脅威評価の広範囲な経験。最近の学校における脅威事件の分析も含む。
- ・1999年に開催されたリーズバーク・シンポジウムで提起された諸考察。
- ・全米分析センターが行った18学校に対する集中的な調査。

これまでに指摘した注意事項への配慮を前提として、暴力に関わる恐れのある特定の行動、個人の性向、家庭、学校及び社会の力学について列記する。

### 第1側面：個人の性向と行動

- ・リーケージ（考えを漏らす事）（Leakage）

リーケージとは意図的又は無意識に、自分の感情、考え、幻想、態度あるいは意図の手がかりを明らかにすることで、それが切迫した暴力行為の注意信号となるかもしれない。この手がかりは目立たない脅威、自慢、暗示、予告、あるいは最後通告という形をとるかもしれない。

リーケージは口頭によるもののほか、物語、日記、エッセー、詩、手紙、歌、絵、いたずら書き、入れ墨、ビデオなどの形をとることがある。

リーケージは、何も知らない友人や級友を暴力行為の準備に引きずり込もうとする行為で明らかになることもある。（時には友人を騙す—生徒が友人に猟に行くから弾丸を手に入れてくれと頼む。）

リーケージは援助を求める呼び声、心の中の葛藤、あるいは一見無意味に見えるが実は深刻な脅威を表すのかもしれない。リーケージは青少年の暴力行為に先行することがある重要な手がかりと考えられている。

リーケージの一例としてある少年を取り上げる。その少年は暴力、無希望、絶望、嫌悪、孤独、ひとりぼっち、ニヒリズム、あるいは「この世の終わり」哲学の話題を繰り返し夢中になって取り上げる。この話題は会話、冗談として、あるいは友人、教師、その他学校の職員、両親、あるいは兄弟

に対する一見無造作な意見のように表明される。その言い方ははっきりしないか、あるいは「冗談、冗談」とか「本気じゃないさ」といった言葉ですぐさま誤魔化そうとする。

その他のリーケージの例を一つ。生徒の作文あるいは絵画に繰り返し現れる破壊、又は暴力の話題。この話題には嫌悪、偏見、死、切断、自分又は他人を傷つける、出血、破壊的武器の使用、殺人、自殺などが関係する。青少年の多くは暴力や気味の悪い話に惹き付けられ、これらの話題が作文あるいは絵画に、無害だが創造的な空想生活として取り上げられる。ある実例として、生徒が家庭科の授業中にケーキを焼くようにいわれた。彼は拳銃の形をしたケーキを焼いた。彼の作文や他の作品も暴力に関することが繰り返し取り上げられていた。

・ 欲求不満に対して我慢できない

この性向を持つ生徒は傷つきやすく、侮辱に弱く、怒りっぽく、他人からの真実の又は想像上の不公正に痛めつけられやすく、欲求不満に対して我慢するのは難しい。

・ 気持ちの処理能力が貧弱

この性向を持つ生徒は欲求不満、批判、失望、失敗、拒否、あるいは侮辱を処理する能力がほとんどあるいは全くない。生徒の反応は典型的に不適切で、誇張的で、未成熟かつ不釣り合いである。

・ 弾力性の欠如

この性向を持つ生徒は弾力性に欠け、不満な又は失望的な経験の後、あるいは頓挫、いやがらせを受けた後かなりの時間が過ぎても立ち直ることができない。

・ 愛情関係の失敗

この性向を持つ生徒は愛情関係が終わったことで拒否されたか侮辱されたと感じ、離別を受け入れることも認めることもできない。

・ ”不公正収集家”

この性向を持つ生徒は真実の又は想像上の不公正に対して怒りの気持ちを持ち続ける。どれだけ時間が過ぎても、”不公正収集家”はその不公正又は不公正をなした人を忘れることも許すこともできない。この生徒は自分に不公正をなした人々を攻撃するためにリストを作っている。

・ 抑鬱の兆候

この性向を持つ生徒は抑鬱症の特長すなわち、無気力、肉体疲労、人生を暗く見る、不快感、あるいは以前に楽しんだことに対する無関心さなどを示す。

青少年の場合は、通常抑鬱症に伴う症状とは別の兆候を示す。抑鬱症の青少年の一部は予測も抑制もできない怒りの爆発、全ての人に対する嫌悪、及び将来に対する絶望感を示す。他の兆候としては、精神運動興奮(Psychomotor Agitation)、不安、不注意、睡眠・食事の異常、以前に興味を示したほとんど全ての行動に対する著しい無関心などが上げられる。生徒はこれらの極端な感情を整理することが困難である。

- ・自己陶酔

この性向を持つ生徒は自己中心的で、他人の欲求あるいは感情に対する洞察力に欠け、自分の失敗や不満を他人のせいにする。自己陶酔的生徒は同情を惹くために、あるいは一時的な優越感を感じるために犠牲者の役割を演ずる。その生徒は偏執狂の兆候を示し無価値感を覆い隠すために尊大あるいは壮大な態度をとる。その生徒は批判に対して極めて敏感かあるいは極めて厚顔である。

- ・隔絶

この性向を持つ生徒は常に、自分は他人と異なるか疎外された感じを持つ。この隔絶された感じはひとりぼっち以上の疎外感である。これには孤立、悲しみ、ひとりぼっち、何にも属していない、何にも適合できないなどの感じが含まれる。

- ・他人の人格無視

この性向を持つ生徒は常に他人を仲間の人格として認めない。生徒は特長として他人を”非人間”あるいは妨害の対象と見なす。この態度は生徒の文章や絵画、他人との対話、あるいは会話中の意見に現れることがある。

- ・他人への無理解

この性向を持つ生徒は他人の感情を理解することができず、他人の感情に無関心に見える。他人が感情を表したとき、この生徒はその人を弱いとか愚かだといってあざける。

- ・誇大な権利意識

この性向を持つ生徒は常に特別な待遇と配慮を期待し、自分が受ける権利があると考える待遇を受けられないときは反発する。

- ・優越的な態度

この性向を持つ生徒は自分が優れているという感覚を持ち、自分がだれよりもスマートで創造的で、才能と経験に富み、世の中をよく知っていると感じている。

- ・大げさな、あるいは病的なまでの注意願望

この性向を持つ生徒は、環境の如何を問わず、良い意味でも悪い意味でも、自分が周囲から注意されたいという欲望を大げさなあるいは病的なまでに持っている。

- ・責任の外部転嫁

この性向を持つ生徒は自分の行為に責任をとることを常に拒否し、失敗や欠点について他人や出来事、あるいは環境を非難する。非難する場合、その生徒は合理的な討論や常識を受け付けられないように見受けられる。

- ・低い自尊心を隠す

この性向を持つ生徒は尊大で自己を飾る態度を演ずることがあるが、よく見るとその生徒の行為は内在する低い自尊心を隠すためと思われる。彼は学校で目立ったり学校活動に参画することを避け、他の生徒は彼をつまらない奴と見ることがある。

- ・怒りを制御できない。

適当な方法と適切な時期に怒りを表すのではなく、この性向を持つ生徒は常に気分的にかんしゃくを爆発させたりメロドラマ風に怒ってみたり、あるいはそれとは逆に、拗ねてぶつぶついいながら黙りこんでしまうこともある。その怒り方は原因に比べると異常な激しさであり、あるいはもとの原因と関係のない人に怒りが振り向けられることもある。

この性向を持つ生徒の怒りは予測も抑制もできない爆発となり、他人や他のグループへの根拠のない偏見、悪意や憎悪を伴うことすらある。

- ・偏狭性

この性向を持つ生徒は民族的や宗教的偏見、あるいは少数民族に対して偏狭な態度を表明し、入れ墨、装飾品、着衣、バンパーステッカー、あるいはブックカバーなどに偏狭なスローガンやシンボルを付けることがある。

- ・不適切なユーモア

この性向を持つ生徒のユーモアは常に不適切である。ジョークもユーモアも気味が悪く、侮辱的で相手をけなし、汚らしい。

- ・他人を誤魔化そうとする

この性向を持つ生徒は、他人を騙し誤魔化して信用を得ようとする。それは自分のよこしまなあるいは脅威的行動の兆候を正当化するためだ。

- ・他人を信用しない

この性向を持つ生徒は他人を信用せず、慢性的に他人の動機や意図を疑う。この信用できない状態は生徒が病的な偏執狂状態に近づいているのかもしれない。この生徒にとって、社会とは正義を実行し衝突を解決するには不適當な機構又はメカニズムであり、もし何か迷惑なことが起こったら自分のやり方で片を付けるという考えを表明